

# 臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所

先生各位

平成 24 年 11 月

A-12-20

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
この度、下記の検査項目を新たに受託開始致しますので、ご利用頂きたくご案内致します。  
今後とも引き続きお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

◆ 実施日 平成 24 年 11 月 5 日（月）ご依頼分より

◆ 新規項目

項目名	マイコプラズマ・ニューモニエ 核酸同定	項目コード	12330
検体必要量	喀痰 1.0mL 咽頭・鼻咽頭拭い液*	検体容器	専用容器
保存方法 (安定性)	凍結 (-20℃)	検査方法	LAMP 法 (Loop-Mediated Isothermal Amplification)
基準値	検出せず	所要日数	4～8 日
検査実施料/判断料	300 点/150 点(微生物学的検査判断料)		

\*咽頭・鼻咽頭拭い液は、滅菌プラスチック軸の綿棒で拭い専用容器でご提出下さい。

マイコプラズマ・ニューモニエ (*Mycoplasma pneumoniae*) は培養に細胞が不要な自立増殖型細菌において最小であるマイコプラズマ属の一菌種です。昨年は、我が国では過去 10 年間で最大と思われる流行がありましたことは記憶に新しいところです。

マイコプラズマの培養・同定には PPLO 培地と呼ばれる特殊な培地が必要であり、生育が遅いため数週間の培養期間が必要とされるので、診断には抗体検査が用いられていました。そのため診断が困難な場合も多く、また感染初期の抗体価上昇が緩慢なこともあるため、有意の感染があったかどうかを調べるペア血清を用いた検査でも判断に苦慮する場合があります。

近年、肺炎は増加傾向にあり、レジオネラ感染症が中高年以上に好発であるのに対し、マイコプラズマは小児から若年世代への感染が多く、またヒトからヒトへ飛沫感染するため、学校内などの集団感染例も珍しくありません。

本検査は LAMP 法により、マイコプラズマ・ニューモニエに特異的な DNA を簡便に同定するもので、マクロライド系抗生剤に高度の耐性を持つ場合も多いため時によっては遷延・重症化するマイコプラズマ感染症を迅速に診断することが可能です。